

# 埋没便益研究の課題と展望 ～公共事業事後評価をヒントに～

高木 朗義<sup>1</sup>・大野 沙知子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>岐阜大学教授 社会基盤工学科 (〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1)

E-mail: a\_takagi@gifu-u.ac.jp

<sup>2</sup>岐阜大学技術補佐員 工学部社会基盤工学科 (〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 1-1)

防災投資効果が人々に実感されない理由に、防災対策が功を奏しているために実際に災害が発生していない点がある。したがって、そのような防災投資の「埋没効果」を計量化・可視化すれば、人々が埋没効果を実感・想像できるようになり、今後の防災投資を適切に進められる可能性が高い。そこで本研究では、まず現状の公共事業事後評価における防災投資効果の評価事例を調査し、埋没便益研究の課題と展望について整理する。

事例調査の結果、国交省や地方自治体がいくつかの防災投資プロジェクトに対する事後評価を実施しており、その際に「埋没効果」に大きく関連した効果の金銭換算化を試みていることが判明した。しかし、ここでは災害前の不安感の軽減の評価や、計測結果の政策過程における位置づけ等、多くの不完全な部分が残されており、それらを踏まえて埋没便益研究のアウトプットが備えるべき要素についての整理を行った。

キーワード：埋没効果，事後評価，被害軽減効果